

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成19事業年度の業務実績に関する評価結果

【案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の平成19事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成19年度業務実績に関する年度評価を実施しました。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものです。

今回の年度評価は、平成18年4月に法人設立後、2回目の評価で、法人の自主的・自律的な運営及び大学の教育研究の特性に配慮しつつ、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価しました。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、効率化、活性化等が図られることにより、教育研究が一層充実する一方で、法人の業務運営状況について、県民の理解が深まることを期待します。

なお、今回の評価委員会による年度評価を踏まえ、翌年度以降の年度評価について、改善・充実を図ることが重要であると考えています。

平成 年 月 日

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

1 総 評	1
2 特色ある取組等	1

第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
（1）教 育	2
（2）研 究	3
（3）附属病院	3
（4）地域貢献	4
（5）産官学の連携	5
（6）国際交流	5
2 業務運営の改善及び効率化	
（1）運営体制の改善	5
（2）教育研究組織の見直し	6
（3）人事の適正化	6
（4）事務等の効率化合理化	6
3 財務内容の改善	
（1）外部研究資金その他の自己収入の増加	6
（2）経費の抑制	7
（3）資産の運用管理の改善	7
4 自己点検・評価及び情報提供	
（1）評価の充実	7
（2）情報公開等の推進	8
5 その他業務運営	
（1）施設及び設備の整備・活用等	8
（2）安全管理	8
（3）基本的人権の尊重	8
<資 料>	9

第1 全体評価

※素案では、年度計画の進捗状況に大学の自己評価結果を引用した。

1 総 評

- ・ 「公立大学法人和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実など県民の期待に応えることによって地域の発展に貢献し、人類の健康福祉に寄与する」という基本的な目標のもと、平成19年度は地方独立行政法人として二年目に当たるが、教職員が一丸となって意欲ある取組と改革を行った。その結果、初年度を上回る成果を上げつつある。
- ・ 年度計画記載287事項の実施状況を確認したところ、~~76~~81事項が「計画を上回って実施している」と認められ、また、~~207~~204事項が「年度計画を十分に実施している」と認められるが、~~4~~2事項が「年度計画を十分には実施していない」と認められ、これらを総合的に勘案し、中期目標・中期計画の達成に向けて、概ね順調に進んでいると認められる。

2 特色ある取組等

- ・ 教育面では、平成18年度に続き、文部科学省の大学教育改革の取り組みに対する各種支援プログラム等への採用採択、大学院保健看護学研究科（修士課程）及び助産学専攻科の開設に向けた取り組みが行われた。
- ・ 研究活動を積極的に展開している中で、「観光医学講座」による社会貢献などは、本学の特徴と考えられ、今後のさらなる活動を期待したい。
- ・ 都道府県がん診療拠点病院として化学療法センターを設置し、加えてがん相談支援センターの相談業務を行う地域相談室窓口を通じ、セカンドオピニオン外来を設けるなど、がん診療体制のさらなる充実が図られている。
- ・ 附属病院が平成20年1月に日本医療機能評価機構に認定されたことを高く評価したい。この認定に向けた努力が医療の質の向上及び患者満足度の向上に貢献すると思われる。この認定が最終目標ではなくスタートと考え、さらなる努力をされるよう期待する。
- ・ 平成18年度に続き、産官学連携推進本部を中心として、外部資金獲得による研究等の質の向上が図られ、同時に受託研究、寄附講座の開設等を通じて県民・社会にフィードバックされる好循環の仕組みが継続されていることを評価したい。
- ・ 業務運営の改善及び効率化についても、人事の適正化のために、医学部全教員に任期制を導入したり、女性医師支援センターを創設する等、意欲的な取り組みが見られる点を評価したい。
- ・ 法人財務については、附属病院収入・産学連携収入及び寄付金収入で予算に対し、10億6千9百万円増とし、支出面についてはアウトソーシング等の結果、人件費は予算に対し、5億3千百万円の減となった。また、棚卸資産の医薬品、診療材料の在庫を1億3千7百万円減少させるなど、努力の結果、10億7千2百万円の当期利益となっている。

第2 項目別評価

※素案では【評定】全てに、大学の自己評価を引用した。

評	S・・・特筆すべき進捗状況にある。
定	A・・・順調に進んでいる。
の	B・・・概ね順調に進んでいる。
区	C・・・やや遅れている。
分	D・・・重大な改善事項がある。

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）

年度計画の記載112事項中111事項が「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない」と認められ、上記の状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムに採択されたケアマインド教育を充実させ、老人福祉施設実習、緩和ケア病棟臨床実習、医療問題ロールプレイ等を通じて成果を上げた。さらに、和歌山SPの会（模擬患者の会）、オープンキャンパス、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択された、地域と連携した健康づくりカリキュラムなど、幅のある教育を実践しており、地域との関わりも重視している点を評価したい。
- ・ 「実践的地域医療マインド育成プログラム」が文部科学省の新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムとして採択されたこと、「女性医師の出産育児休業からの職場復帰支援」が地域医療等総合社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラムとして文部科学省に認定採択されたこと、さらに「チーム医療を推進するがん専門医療医者の育成－集学的治療から在宅医療そして緩和ケアまで－」が文部科学省のがんプロフェッショナル養成プランに採択されたこと、大学院保健看護学研究科（修士課程）及び助産学専攻科開設を見たことはいずれをとっても大きな成果である。
- ・ 教育内容、実施体制については、情報処理能力、課題探求能力、コミュニケーション能力の育成に力を注ぎ、大きな成果を上げた。
- ・ 学生への支援として、健康管理センターの設置、学生が独自に取り組んだ研究課題に対して支援助成を行うとともに、大学院生に対する長期履修制度や夜間講義など、便宜が図られている。
- ・ 医師の国家試験合格率が、昨年度の88.7%から97%と、目標の95%を上回り、国公立大では第3位、公立大では第1位という成績を収め、看護師については100%、保健師については96.5%の合格率を達成していること、また、初期臨床研修医の本学出身者マッチング率が71%に達していることは、いずれも本学の教職員の努力が結実した成果である。
- ・ 国際交流センター事務室を設置し、海外の機関との派遣・受入数増加を図り、交流を推進し

た。

(2) 研究

【評定】：A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載25事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 機能的医薬食品探索講座において、県内特産品の梅を用いての疾病構造の解明と食品新商品の開発の研究、並びに観光医学講座と病態栄養治療部との連携による疾病患者向けに旅行企画と食事療法の指導、及び献立栄養指導等、地域産業との共同研究については大いに評価する。このような観光医学講座については、本県の特産物や観光資源を用いての研究であり、地域貢献や観光資源を通じて社会貢献するユニークな研究として特筆される。
- ・ 英文原著論文は国際的に評価の高いジャーナルへの投稿が増加し、総数479件という高い成果を上げるとともに、文部科学省の研究補助額も昨年に比べ著しく増加を見たことは、研究の水準の高さを示すものである。
- ・ ~~病歴部において、院内がん登録を実施したこと~~院内がん登録の実施、緩和ケアチームや化学療法センターの設置等により、附属病院におけるがん診療体制の充実が図られた。
- ・ 特定研究・教育助成プログラム発表会を開催し、4件の応募中1件を採択し、1千7百50万円の助成が行われた。
- ・ ホームページ内容の充実、パンフレット作成、産官学連携推進本部「異業種交流会」開催等により、共同研究のためのマッチングを促進するための機会が設けられた。
- ・ 寄附講座、受託研究、共同研究の件数が、前年度より増加している。

(3) 附属病院

【評定】~~B（概ね順調に進んでいる。）~~A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載60事項中~~59事項~~全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、~~1事項について「年度計画を十分には実施して~~いない」と認められ、上記の状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 附属病院では、化学療法センターを設置するとともに、緩和ケアチームやセカンドオピニオン相談窓口を設置し、がん診療体制の強化が図られている。
- ・ 附属病院が財団法人日本医療機能評価機構の認定を受けたことを評価するとともに、今後もより質の高い医療の提供を実践されるよう期待する。
- ・ 医療安全体制の充実のために医療安全推進室を設置し、専任の薬剤師、看護師を配置し、組織の充実機能の強化が図られている。
- ・ 病院経営に関してはDPCデータを活用した総合分析システムの導入による効率化を図るとともに、未収金対策として、専任職員を配置し、未収金の回収に努力した。また、経費削減のため預託方式を取り入れ、院内在庫を縮小管理により効率的な物品管理が行われ、加えてアウトソーシングの見直しを行うなど努力がなされたことは、評価に値する。
- ・ 教育研修では、医学部生の「看護体験実習」実施など、病院における看護サービスの実際を

学習する機会を設けている。これは、働く看護師にとっても良い刺激になるとともに、多職種間のコラボレーションを学ぶ良いチャンスでもある。

- ・ 2006年の診療報酬改定により新設された「7対1」看護により、加算に伴う看護師不足は社会全体の課題となっているが、本学では看護師の定着促進に向けた様々な取組が行われている。専門看護師による看護相談も一つの例である。また、保健看護学部の学生数出身者の採用も安定しているようであり、将来の看護師確保に継続するものと考えられる。
- ・ 医療安全対策においては、インシデントの分析も行われている。平成19年度のインシデントレポート総数は3,396件と、前年度より452件増えているが、これは逆にインシデント報告がオープンになってきた証でもあると解釈できる。
- ・ 病院運営においては、マンパワーが決して十分とは言えない状況において、病床稼働率の上昇とともに収益も伸びている。しかし、この状態が必ずしも良い状態とは言い難い。安全な医療サービスを提供していくためには、ある程度のマンパワーの充実が求められる。
- ・ 看護相談室における相談が月91.4件と昨年度の2倍以上となった点は評価できるが、同時に相談担当者の負担が過重とならないよう、相談体制の充実に注意を払う必要があると思われる。
- ・ 地域社会との交流を深めるため、積極的なボランティア受け入れに努めた結果、前年度の3倍以上の人数の増加が図られた。
- ・ 紀北分院の病床稼働率が前年度より改善されたものの目標を下回っており、さらに再整備のもと改善を講じる必要があるが、本院・分院とも病床稼働率・平均在院日数において前年度より改善されたことは評価に値する。

(4) 地域貢献

【評定】：A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載14事項中全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 全学的な地域医療支援のあり方や具体的な事業計画の検討を進めるため、地域医療支援調整委員会を定期的に開催した。
- ・ 小児成育医療支援学講座を通じ、家族対象に医療相談を行うとともに、周産期医療体制を確保するための調査研究や医療専門職業人を育成するための実習生の受け入れ等により、県下の医療水準の向上に貢献した。
- ・ 救急医療センターでは、一次から三次までの診療に応じるとともに、ドクターヘリによる三次救急医療を行い、へき地の重症患者の救命に大いに貢献した。
- ・ 高度先進医療の県下中核病院として県内の高度先進医療の中核病院として当医療を県民に広く提供するとともに、がん診療連携拠点病院としてがん診療の支援を行う医師の派遣を行ったに係る医療従事者への研修を実施し、がん診療の均てん化に努めた。
- ・ 地元NPOとの連携により医療サービスを付加した観光企画において、ツアー企画・監修等を行うとともに、観光医療指導師、観光健康指導士の育成を行うなど、地域の特色を生かした健康づくりの推進に貢献した。

(5) 産官学の連携

【評定】：A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載5事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 産官学連携推進本部を中心に異業種交流会を立ち上げ、企業と本学の共同研究を行うためのマッチングを促進するための機会を設け、加えてホームページ等による情報を通じ、企業や地方公共団体からの外部資金を活用した積極的な教育研究活動を展開していることは大いに評価できる。

(6) 国際交流

【評定】：A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載4事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 国際交流センターを整備し、センター事務室を設置し、機能の充実と活動の活性化に努め、ホームページを通じ情報を発信するなど活発な活動を通じ、本年度はハーバード大学など5大学に教職員10名、学生13名を派遣し、海外より教職員9名、留学生8名、学生3名を受け入れるとともに、ソウル大学医学部、香港中文大学と学術交流協定を締結するなど、活発な行動は大いに評価できる。しかし、留学生等が多くなるほどその人々のケアのための職員増を将来考えるべきである。
- (・ 国際的な災害救助や医療技術支援については、~~現在他大学の参加は見られないが、今後の率先した参加が望まれる~~大学としての国際交流の一翼を担っていると思われるが、災害救助を含め、今後も幅広い分野での相互交流の発展を期待する。) ()内を提言へ移行

2 業務運営の改善及び効率化

(1) 運営体制の改善

【評定】：A（順調に進んでいる。）

年度計画の記載9事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 産官学連携推進本部長自ら若手企業家の勉強会に出席し、異業種交流会を立ち上げ、産官学の連携に努めるとともに、理事会直轄組織である地域国際貢献本部及び産官学連携推進本部を始め、企業企画戦略機構による財政基盤の充実と研究教育基盤の充実・推進に努めている。
- ・ 複合施設整備検討委員会及び教育棟整備検討会議において、それぞれ基本計画を作成し、教育研究機関、地域の中核医療機関として現状分析と課題の抽出を行い、将来像に向けての対応に取り組んでいる。
- ・ 大学から広く斬新な意見を取り入れるために教育研究審議会を運営するとともに、経営審議会委員の半数を外部委員とするなど、開かれた大学に努めていることは大いに評価できる。

(2) 教育研究組織の見直し

【評定】：C (やや遅れている。)

年度計画の記載2事項中1事項が、「年度計画を十分に実施している」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 大学法人化に伴い、教育研究組織の改革改善を図るために、学内に多くの委員会・協議会・審議会等が設置され、それぞれその役割を果たしているが、業務効率化を図るため、今後は改めて新しい視点での教育研究組織の見直しが必要であると思われる。

(3) 人事の適正化

【評定】：A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載9事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 医学部全教員に任期制を導入するとともに、教員の評価制度について、教員評価委員会の運営、任期制教員の再任時の評価等の諸課題の検討を行い、本年度より試行したことは特筆すべきことである。
- ・ 平成22年度までに女性教員の割合を20%以上にする目標達成に向け、女性医師支援センターを創設し、加えて院内保育所の増築を行うなど、注目に値する。
- ・ 臨床実習等の指導に協力する医療機関の優れた医療人に対して2名の臨床教授を選任したことは、学部の臨床実習のみならず、卒後臨床研修等の充実を図るものとして評価したい。

(4) 事務等の効率化・合理化

【評定】：A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載3事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 大学運営に必要な情報収集と分析能力の強化を図るため、事務局の中に企画課及び施設管理課を新設し、治験管理部門を専用スペースに移転を行い、事務処理の迅速化を図った。
- ・ 昨年に続き、給与計算事務・滅菌業務及び看護補助業務等のアウトソーシングを行ったが、今後もさらなる点検や見直しを行い、コスト削減する必要が求められる。

3 財務内容の改善

(1) 外部研究資金その他の自己収入の増加

【評定】：~~C (やや遅れている。)~~ A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項中~~4事項~~全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、~~1事項について「年度計画を十分には実施していな~~

~~「A」と認められ~~、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 科学研究費補助金の獲得額は昨年より30%の伸び率で約2億3千万円、外部資金でも昨年度より約42%の伸びで9億2千万円となり、著しい成果を収めている。
- ・ 附属病院の収益は昨年に比し約3億4千万円の増収など教職員の並々ならぬ努力がなされ高く評価したい。

(2) 経費の抑制

【評定】: A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項中、全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ ガス単価の高騰、メンテナンスの費用の増加によりコージェネレーションの運用を見直すことにより、電気、ガスについては2千3百万円のコスト縮減が図られたが、さらに、電気、熱などエネルギー使用量の削減を期待する。
- ・ 医療用材料検討委員会における診療材料の削減についての検討や、クールビズ・ウォームビズを徹底するなど、各部署において、教職員に対する経費節減のための意識啓発の取り組みが行われている。

(3) 資産の運用管理の改善

【評定】: A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載1事項が、「年度計画を十分に実施している」と認められたことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 定期預金等適切な資金運用が行われている。今後さらなる安全・確実にして高率な運用を模索していくことを期待する。

4 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】: A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載6事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 大学評価委員会において、各学部、大学院研究科、附属病院の教育・研究など自己点検を行うとともに、財団法人大学基準協会による認証評価を受けるために必要な資料の収集及び分析を行い、加えて学生生活に関するアンケート調査を実施し、自己点検に活用するなど、評価の充実に向けた努力が見られる。
- ・ 日本医療機能評価機構の認定を取得されたことは高く評価できる。この取得が最終目標ではなく、今後、年度毎に自己点検・評価し、継続的に目標に向かって改善していく必要がある。

(2) 情報公開等の推進

【評定】: A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載5事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 教育・研究の諸活動について自己評価し、その報告書に基づいて教育研究審議会、経営審議会、理事会で審議した。

5 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】: A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載8事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 建物・施設の老朽化等の検証とともに、地域医療推進センター整備基本計画の策定や紀北分院の基本設計を作成するなど、施設整備の充実に向けて前進した。
- ・ 図書館及び生涯研修・地域医療支援センターを広く医療関係者に開放している。

(2) 安全管理

【評定】: A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載6事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 健康管理センターを設置し、産業医1名、職員1名を配置するとともに、衛生工学衛生管理者を選任し、安全管理体制が整備されている。今後の活動に期待したい。

(3) 基本的人権の尊重

【評定】: A (順調に進んでいる。)

年度計画の記載7事項中全てが、「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価及び指摘事項】

- ・ 人権同和研修会に1,195名が参加するとともに、各学部において、倫理学、生命学等の講義を通じ、生命の尊さ、基本的人権の尊重等教育啓発に努めている。
- ・ 学内のハラスメント対策として、職員等相談処理規定を制定した点は評価できるが、相談手続について、さらに具体的な指針等を定め、相談員の研修等を行う必要があると思われる。
- ・ 倫理委員会に外部委員を任命した点は、一定の進歩であるが、未だ外部委員の比率(16名中2名)が低い。

<資料>

○ 和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（五十音順、敬称略）

氏 名	役 職 等
茨 常 則	日本医療文化研究会 主宰
佐 藤 エキ子	聖路加国際病院 副院長・看護部長
島 岡 ま な	大阪大学大学院高等司法研究科 教授
◎ 月 山 和 男	月山病院 院長
橋 本 佳 明	上尾中央総合病院 生活習慣病センター長
林 宏	元株式会社紀陽銀行 専務取締役

(注) ◎印は委員長

○ 業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・ 第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成20年7月 1日開催
- ・ 第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成20年8月 5日開催
- ・ 第3回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成20年8月19日開催

○ 大学収容定員等（平成19年4月1日時点）

	収容定員(人)	収容数(人)
医学部	360	364
保健看護学部	336	336
医学研究科		
修士課程	28	31
博士課程	157	112

○ 教職員数（平成19年6月1日時点）

総	数 (人)	1, 327
教員		323
事務職員		88
技術職員		7
現業職員		45
医療技術部門職員		148
看護部門職員		702
研究補助職員		14

(出典) 平成19年度和歌山県立医科大学概要